

## MACF 礼拝説教要旨

2022年6月12日

### 【種まきのたとえ】

ルカによる福音書8章

8:4 大勢の群衆が集まり、方々の町から人々がそばに来たので、イエスはたとえを用いてお話しになった。

8:5 「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。

8:6 ほかの種は石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。

8:7 ほかの種は茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、押しつぶさってしまった。

8:8 また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」イエスはこのように話して、「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声で言われた。

8:9 弟子たちは、このたとえはどんな意味かと尋ねた。

8:10 イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、『彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』ようになるためである。」

8:11 「このたとえの意味はこうである。種は神の言葉である。

8:12 道端のものとは、御言葉を聞くが、信じて救われることのないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る人たちである。

8:13 石地のものとは、御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、根がないので、しばらくは信じて、試練に遭うと身を引いてしまう人たちのことである。

8:14 そして、茨の中に落ちたのは、御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富や快樂に覆いふさがれて、実が熟するまでに至らない人たちである。

8:15 良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである。」

\*\*\*\*\*

撒かれた場所によって、その種が結実に至らない事がありうる。

神様の言葉を聞いて、みんなが同じ思いになり、みんなが信仰をもって神を賛美するようになったら、いわゆる伝道活動は不要になるのかもしれない。

鳥が種をついばんでしまう道端

水がなくて根が育たず枯れてしまう石地

誘惑や富や快樂で成長を妨げられてしまう茨の中間き、守り、忍耐によって結実を味わう良い土地

#### 1) 種がまかれる

イエス様は、この種は神の言葉だと語りました。神の言葉がそれぞれの人たちにいろいろな形で届けられます。

ここでは、種のまかれ方については語られていません。むしろ、その種がどんな土壌に落ちたのかが問題となっています。

#### 2) 道端・石地・茨・良い土地

こういう話を聞いているとなんとなく、自分のことは棚にあげて「あの人はきっと道端の心だなとか、あの人はあんなふう教会を去ってしまったから茨だな」とか、他者の問題についてはよく見えるのです。

しかし、よくよく考えると、これらの4つの側面は、わたしたちみんなひとりひとりが持っている心ではないでしょうか。

その時の雰囲気や心が道端モードになったり石地モードになったりしていないでしょうか。

おそらく、だれでもが何度かの「揺れ」を経験していると思います。良い土地と石地を行ったり来たりしているのです。

### 3) 繰り返される種まき

現実的にはその年の種まきはある時期一度で終わります。

でも、わたしたちの睡眠が死を連想させ、朝の目覚めが再生を気づかせてくれるとしたら、その日、その日に、新しい一日の真っ白なキャンバスが用意されていることになります。

そして、昨日は石地だった心に、再び聖書の言葉が向けられた時、今日は茨の心で聞いている自分がいたり、あるいは素直に感謝しながら御言葉を受け止め、信頼している自分もいることに気づきます。

そうです

神の種まきは「繰り返されて」いるのです。

毎朝、毎朝が新しい種まきの季節のようなものなのです。

私は毎朝「日ごとの糧」という名前でローズンゲンからの短い聖句を配信しています。

このローズンゲンというのは、今日のふたつの聖句は5年前にくじで引いて選ばれているものとなっていて、人間の意図的要素はまったくなく、ただ祈りの中で選ばれた旧約の聖句に、新約聖書で同じようなトピックを扱っている聖句を選んで形ができあがっています。

要するに、今朝、私たちがそれらの神の言葉を、どのように心で感じ取っているか。

その言葉が、今の自分に対して「神からのメッセージ」として響いているかどうか。

そういう部分に問題があるのであって、撒かれた種そのものが不要なものだったということはありません。

そして、これらの事柄は単に「知的に理解すればよい」ものではなくいわば体験的に感じ取る事が重要です。

神の種が撒かれ、それが心に育っていくという出来事は、人間の知恵とか知識では計り知ることができないのです。

聖霊がその重大さに気づかせてくださらなければ、なかなか自分の心に何が起きているのか認識することは難しいのです。

でも、それはある時、はっきり気付けるときがあるはずです。

自分の中に神の御言葉による「種」が撒かれ、やがてそれが育って聖霊の実を結ばせる原動力になるものだと思えないわけにはいかないほど明確にそれをうなづける日があるのです。

そして撒かれた神の御言葉を信頼しながら一日ずつ丁寧に生きていく時、振り返ればきっとそこには実りがあるのだと思います。

それらは全体に対して撒かれるとしても、受け取り手は個人個人です。

あなたにどう届いているか、それはあなたにしかわかりません。

いわゆる用紙を使っただけのテストはできないのです。

今日の神の恵みの御言葉は、あなたに届いています。

あなたの心に撒かれています。

おだやかに、しっかりと、受け止めたいですね。

祝福がありますように。

\*\*\*

2022年6月12日の

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/70uT2ngDxPE>